

## Y08a 学校が開催する天体観測会の天候不良時対応について

佐々井祐二（津山高専）

津山高専では、世界天文年2009を契機として小中学生対象の公開講座「天体観測会-君も未来のガリレオだ!-」を年4、5回開催しており、地域住民から好評である。天体観測会では、教員と補助学生、さらに本校学術・社会連携推進室がチームを組み、補助学生の「教えることで教えられる」相互教育の場ともなっている。観望資料も毎回作成している。小中学生の受講生に加え保護者等も参加するので、参加者数は受講生数の2倍程度となる。そこで、時間内の観望天体数を考慮し、抽選された受講生定員を20名とし、定員に対する達成度も考慮し受講案内は25名に送っている。募集は津山市内小中学校に配布する受講チラシによって主に行い、切り取った受講申込書を本校学術・社会連携推進室に持参あるいは電話で申し込みをするようになっている。

本年も4月から補助学生のトレーニングを行った上で、5月18日(金)に第1回「口径35cm望遠鏡で金星と木星を見よう」を迎えるはずであった。5月21日(月)に予備日を設定してあったが、天候判断等の関係で6月1日(金)に開催した。延期等の連絡について、以前は学術・社会連携推進室の職員が総出で電話連絡していたが、最近は本校公式ページのお知らせ欄で告知している。このような連絡方法に加えて大幅な延期開催であったが、幸いにも、受講案内した受講生25名の内21名とその保護者等を合わせて41名の参加があった。

予定日に開催したい。しかし、天候不良時には、参加者は減少すると思われるが裏番組を予定するのか、延期開催するのか、曇天であれば開催を強行するのか、悩みは尽きない。いずれにせよ受講生保護者の携帯メールアドレスがあると、確実な連絡を取りやすい。メールアドレス登録のためにはWeb受付が望ましい。本発表では、今後の改善を見据えた受講者受付方法、天候不良時対応の考察を紹介し、各位のアドバイスを仰ぎたい。